

# 第1学年 国語科学習指導案

時間・場所 1校時 1年2組教室  
 学 級 1年2組 32名(男子17名女子15名)  
 指 導 者 後澤 洋子

- 1 単元名 本をえらんでよもう  
 学習材名 中心学習材 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(光村図書1年下)  
 補助学習材 「ぼくたちまたなかよしさ!」「そんなのずるいよ!タイロン」「どろんこハリー」ほか

## 2 単元について

児童はこれまでに、「はなのみち」と「おおきなかぶ」において、音読と動作化を多く取り入れながら登場人物の行動や会話を基に想像を広げる学習を行ってきた。そして、「ゆうやけ」では、登場人物の行動や会話と自分の経験とを結び付けて読む学習を行ってきた。これらの学習を通して、登場人物の行動や会話に基づいて読む力が少しずつ育ってきた。さらに、「くじらぐも」では、吹き出しを付けながら場面の様子を想像し、大好きな場面を見付ける活動を行った。この学習を通して児童は、登場人物の行動や会話を基に場面の様子や気持ちを想像を広げながら読み、大好きな場面やその理由を考えることを経験している。

中心学習材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、身近な動物である犬と少年との交流が描かれている。これまでの作品に比べ長い物語であり、読書経験の少ない児童にとっては抵抗が大きくなることが予想される。一方で、一人称視点で語られている特徴もあり、愛犬エルフを親友として愛し、死に至るまで慈しみ続ける「ぼく」の心優しさに共感しながら読み進めることができる。「ぼく」に自分を重ねながら心惹かれた場面を見付けるのに適した作品である。

本単元の構成にあたっては、本の紹介カード(以下、「おはなしの木」)で紹介するという言語活動を設定し、みんなの「おはなしの木」を集めて「おはなしの森」を作ることにより、互いの大好きな本を交流しながら、自分のお気に入りの本を増やしていくことを目的として学習を進めていきたい。指導にあたっては、大好きなところを見付けるために、登場人物の行動や会話、挿絵から、場面の様子について十分想像を広げさせながら読ませていきたい。その際、児童が大好きなところを見付けるために、ストーリー全体を何度も何度も通読する学習を展開していきたい。その際、下記の指導を行いながら、児童に想像する楽しさと本の楽しさを十分味わわせるように展開していきたい。

- ・お気に入りの本を選ぶ時間を保障するために、並行読書を行う。
- ・挿絵から想像を広げるための吹き出しシートを活用し、場面の様子を十分に想像させる。
- ・何度も何度もストーリー全体を読み返し、大好きなところに付箋(大好きな理由)を貼らせていく。
- ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の学びをお気に入りの本でそのまま活用できるよう、第二次と第三次で同一の学習過程を展開する。

## 3 単元の指導目標

- 本を紹介し合うことに興味をもち、読みたい本を選んで、大好きなところを見付けながら楽しんで読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像を広げながら読むことができる。(C読むこと ウ)
- 友達に紹介するために、自分で本を選び、お話の大好きなところを見付けることができる。(C読むこと カ)
- 自分が見付けたお話の大好きなところを、紹介することができる。(C読むこと オ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(伝国イ(ア))

## 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・態度
○本を紹介することに興味をもち、読みたい本を選んで、大好きなところを見つけながら、楽しんで読もうとしている。	○登場人物の行動に着目し、場面の様子について想像を広げながら読んでいる。(ウ) ○自分で本を選び、友達に紹介するために、お話の大好きなところを見つけている。(カ) ○お話の大好きなところを友達に紹介している。(オ)	○自分の大好きを表現するために、必要な語句を考えたり、語彙表から選んだりしている。イ(ア)

## 5 学習計画(全9時間)

- 「おはなしの木」カードのモデルを見て、学習課題を設定し、学習の見通しをもつことができる。(2)
- 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を場面の様子を想像しながら読み、好きな場面を選ぶことができる。  
 .....(本時2/2)
- 「おはなしの木」カードの書き方を確かめ、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」について書くことができる。  
 .....(1)
- 補助学習材の中から1冊選んで再読し、好きな場面を選ぶことができる。.....(2)
- 自分が選んだ本についての「おはなしの木」カードを書くことができる。.....(1)
- 各自が書いた「おはなしの木」カードを交流し、次に読みたい本を決めることができる。.....(1)

6 本時の指導（4／9）

(1) ねらい

「おはなしの木」カードに向けて、大好きなところとその理由を考え、「ぼく」の行動やエルフへの思いについて想像を広げることができる。

(2) 展開

学習活動	学習内容	指導のための工夫・評価
<p>か</p> <p>1 前時の学習を想起する。            ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の挿絵に吹き出しを付けて、「ぼく」と「エルフ」の思い出について想像を広げてきたことを確認する。</p> <p>か</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>		<p>・数名の児童の想像した吹き出しを紹介し、想像を広げた場面の様子を思い起こさせる。            □（視覚化）</p>
<p>ともだちと大すきなところをおはなししながら、いちばん大すきなところをみつけよう。</p>		
<p>や</p> <p>3 大すきなところを見付け、大好きなわけを考える。            ・再度、挿絵に吹き出しをあてて、場面の様子を広げながら読む。            ・「大好きなところ」を見付け、そのわけを考える。</p> <p>く</p> <p>4 互いの大すきなところを交流する。            ・同じ場面を選んだ友だちと交流する。             ・違う場面を選んだ友だちと交流する。</p> <p>5 自分の一番大好きなところを選ぶ。            ・たくさん見つけた「大好きなところ」の中から、最終的に最も大好きなところを選ぶ。             ・大すきなわけを付箋紙に書いて貼る。</p>	<p>○登場人物の行動(叙述)と挿絵を結び付けによる場面の様子の想像</p> <p>○大好きなところの理由の比較</p> <p>○選んだ場面について広げた想像の共有</p> <p>○選んだ場面とその理由についての考えの再構築及び学習のまとめ</p>	<p>◇吹き出しをあてて想像を広げる活動を通して、大好きなところとその理由を整理させていきたい。</p> <p>◇同じ場面を選んだ児童同士で交流させることにより、「わけ」に着目させ、互いの「わけ」と比較させたい。□（視覚化）</p> <p>◇後半は、違う場面を選んだ児童同士で交流させ、互いに選んだ「大好きなところ」を交流させ、お話の楽しさや感動を共有させたい。□（共有化）</p> <p>◇交流によって広げた「大好き」について、一人一人に整理させ、次時の「おはなしの木」に向けて「大好きなところ」を明確にさせたい。</p> <p>◇付箋紙に書きこむ大好きなところの理由については、こちらからいくつか例示をする。□（視覚化）</p> <div data-bbox="938 1503 1433 1727" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>・大好きなところについて、その理由（「ぼく」の行動やエルフへの思いについて想像を広げた内容）を、書いている。</p> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <p>・付箋紙</p> </div>
<p>よ</p> <p>6 本時の学習を振り返る。            ・大好きなところと、そのわけを発表する。</p> <p>7 次時の学習について確認する。</p>	<p>○目的とする言語活動に向けた振り返り</p>	<p>◇児童の発表を通して、個々の交流の様子を取り上げたり、大好きなところを選んだわけを補足したりしながら、学習活動を価値付け、「おはなしの木」カードへの活動意欲へつなげていきたい。</p> <p>◇次時は、「おはなしの木」カードで一番大好きなところを紹介していくことを確認する。</p>